

2022 年度教国自由研究 フィールドワーク班 報告レポート

実施日 : 2022 年 12 月 11 日 (日)
行先 : 福山市ふくやま文学館 鞆の浦
班員構成 : 1 年生 2 名、3 年生 4 名



1 つ目の目的地であった福山市にあるふくやま文学館には、福山市出身の文学者についての常設展示があり、井伏鱒二について大きく取り扱っていた。国語の教科書にもよく掲載される『山椒魚』についての展示がとくに充実しており、井伏直筆の原稿で改作による作品の変遷をたどることができた。また、そのモチーフとなったチェーホフの作品『賭け』の存在を知り、2 作の関連性についてもさらなる興味がわいた。

ほかの作品についてもその全文や作品同士のつながりについての展示があったり、井伏とほかの作家（小林秀雄、太宰治など）とのかかわりについての説明があったりと様々な知識を得ることができたとともに、細部にわたって加筆・修正が見られる直筆の原稿からは、文学作品執筆に対する井伏の熱量を感じ取ることが出来た。

2 つ目の目的地である鞆の浦では、万葉集に載っている和歌の歌碑を巡った。



吾妹子之見師
鞆浦之天木香樹者
常世有跡見之人曾奈吉
わぎもこがみし
ともものうらのむろのきは
とこよにあれどみしひと
ぞなき
(万葉集 446)



鞆の浦の
磯のむろの木
見むごとに
相見し妹は
忘れえめやも
(万葉集 447)

変化しない美しい自然と今は亡き愛する人とを重ねているという点で共通する2首の歌碑があった。実際に歌が詠まれた地（鞆の浦）に立ち鑑賞することで、作者である大伴旅人の思いを身近に感じられた。（板東向日里）

